

ぼうさいこくたい

2025 in 新潟



語り合い 人々 支え合い

～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～

日程：2025年9月6日(土)・7日(日)

会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

24年8月6日

第3回現地情報共有・連携会議用資料

1 ぼうさいこくたいの狙いと意義

防災推進国民大会（通称 ぼうさいこくたい）は、内閣府等が主催し、産学官民の関係者が日頃から行っている防災活動を発表し、交流することを狙いとした日本最大級の防災イベントです。

2 ぼうさいこくたい2025の特徴・見所

ぼうさいこくたいは、2016年から開催しており、今回の大会は、10回目になります。この大会は、2004年中越地震等を経験した新潟県で開催され、その経験や教訓を次世代に伝え、将来の災害に備えるものとなっています。その見所ですが、初日の「オープニングセッション」（内閣府主催）では、中越地震発災時の長岡市長であった森民夫前長岡市長が、「中越地震を振り返って—中越地震の対応とその教訓（仮題）」というテーマで基調講演を行い、それを受けて、「ハイレベルセッション」（内閣府主催）では、「中越地震等と復興・災害への備え（仮題）」というテーマで、矢守克也京都大学教授らが登壇して、発災後20年の復興について振り返りを行います。

3 出展者数、来場者数の変化

2016年第1回大会（会場：東京大学）の出展団体数は61団体、現地来場数は約1万2,000人です。2024年第9回大会（会場：熊本城ホールほか）の出展団体数は404団体、現地来場数は約1万7,000人です。2025年の第10回大会（会場：新潟市朱鷺メッセ）は、開催前であり、辞退等があるため確定した数字は出ていませんが、過去最高の出展団体数になる見込みです。

開催に当たりましては、開催地の自治体と連携して、現地の関係団体にお声がけをいただいたり、現地の災害経験等を踏まえたテーマを設定する等特色あるイベントになるようにしていることが、出展者数や来場者数の増加につながっていると思われます。

4 ぼうさいこくたいを続けてきたことによる効果、成果

出展者数や来場者数を見てもわかるように、年々出展されたり、現地に来場されたりする方が増加しています。また、例えば、ぼうさいこくたいに来場された方が、次の年は出展者となって活動されたり、ぼうさいこくたいの場で知り合った出展者同士が連携して活動するような例も見られ、共助による多様な防災活動が広がっていると思われます。

5 ぼうさいこくたい10年の課題

防災のイベントというと、一般の方からは、敷居が高いと感じられてしまうというのが、よく見られる課題の一つです。

そのような課題に対応するため、学術研究団体による専門的な学術研究者向けのセッションから、子どもたちのための迷路とか、専用の椅子に座って地震を体験できるエンターテイメント性の高い企画まで、多様な出展物を揃えることによって、専門家から一般住民の方や子どもまで、多様な方々に御参加いただけるようになっていきます。

(例)

OR2 AR (拡張現実) GENSAIめいろ

OR1 ザブトン教授の防災教室

6 特徴のあるセッションの例

中越地震等の被災地をまわる「エクスカーション (バスツアー)」が組まれたり、初めてぼうさいこくたいに来ていただいた方向けに、専門家がぼうさいこくたいの会場内を御案内する「会場ツアー」が組まれたりしました。

(例)

OR5 中越回廊・水害治水エクスカーション

OR3 ぼうさいこくたい会場ツアー

また、内閣官房が主催するセッションで、「災害大国日本におけるこれからの防災～防災庁の果たすべき役割について～」と題して、わが国の防災の在るべき姿、防災庁が担うべき役割について、有識者等によるパネルディスカッションが行われます。

(例)

S 05 災害大国日本におけるこれからの防災～防災庁の果たすべき役割について～